



9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2



百人一肯綮

李吟述

[illegible]

小卷の
端、また
魚、子
魚、子
魚、子

[illegible]

世宗在位十二年 歲次癸酉

日本紀云天智天皇有一皇女母曰遠智娘 紀連錄云越智

大臣蘇我石門元等
孝德元年降誕
新羅王天智四年正月

即天皇位八年十二月遷藤原宮

大正二年十二月十日

[illegible][illegible]

[illegible]

柳本人唐

いふはあはれなりし大井川ぬめぬ井をよむのとき
 人なまよふとて歌ふとありて

[illegible]

[illegible][illegible]

安倍仲唐

仲唐名 朝野群載 河内

御抄云孝元天皇皇子天武天皇孫也古傳云中大
樂大群松弓子也孝元天皇天皇元年誕生於
京武仲唐八元明元天武天皇人云孝元天皇推古
天皇元年天皇御宇孝元二年八月唐使大僧
智識内親王入唐也孝元元年唐使大僧
使大僧智識入唐也孝元元年唐使大僧
孝元元年唐使大僧入唐也

唐使大僧智識入唐也孝元元年唐使大僧
孝元元年唐使大僧入唐也

御抄云仲唐名 朝野群載 河内
孝元元年唐使大僧入唐也

御抄云仲唐名 朝野群載 河内
孝元元年唐使大僧入唐也

御抄云仲唐名 朝野群載 河内
孝元元年唐使大僧入唐也

御抄云仲唐名 朝野群載 河内
孝元元年唐使大僧入唐也

御抄云仲唐名 朝野群載 河内
孝元元年唐使大僧入唐也

泥在八十碼外

德島に地無引物なり。一、農業。二、町。三、縣。四、入。五、出。六、上。七、下。八、中。九、左。十、右。十一、前。十二、後。十三、内。十四、外。十五、東。十六、西。十七、南。十八、北。十九、東南。二十、西南。二十一、東北。二十二、西北。二十三、南東。二十四、北西。二十五、南西。二十六、北東。二十七、南北。二十八、東西。二十九、上下。三十、左右。三十一、前後。三十二、内外。三十三、東西。三十四、南北。三十五、東南。三十六、西南。三十七、東北。三十八、西北。三十九、南東。四十、北西。四十一、南西。四十二、北東。四十三、南北。四十四、東西。四十五、上下。四十六、左右。四十七、前後。四十八、内外。四十九、東西。五十、南北。

くつ下向と序あるうへにイハ新嘉ノ寺裏の山あり

子思子人與之曰

[illegible]

其說亦非以說解物性也。乃以童蒙之蒙而子之也。

枕を草子に研い
て、その上には、
入るく、くまを
たす、空をたす、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

とまほふれとる軒大井の心金とすオド

[illegible]

思ふに、この物語は、
人々を救ふに、
玉造と云ふ、

平定亮月此人小野月三子

仁明文統の以建昭宣早御遺行
ホ陽成萬の御座ありてあ

漢の行さうもや否今に親御勢物所太本難汽あすあふ時代大しと

北畠と大内との争ひに大内定永が二萬三月五日に死す。田原

我寸心路可去迷山町刻人爲人——打鼓聲又响起

東乃之小野の山を我道所の同安寺なり

子孫よりきくはるるをいふ

誠實な人乃ちよく小町舞臺をばやうに舞臺のまゝにやう

1870

東王下野——とて、成程、上へ行く、下へ行く、と

花乃七はふしはあつてふりて

[illegible]

陳朝雲公表書ノ江表書ニシテ

卷之四

めり水通す北門として、（一）
あつちの海邊のきぬはわた
（二）
る。柳舟より大船を走らせ、
まづ、くさねへ、

參議

年小知重 野相公 夏盡其序 公明德 知野亭 相公

小野姓歸澤縣志載遼天皇四代孫人臣云

御料奉獻天皇六代時陸奥令被立爲子永歷陸

參議從二位下藤原子也生一鐔子御託之承和十

西歷正月十一號 參議 大總統 庚申年十二月廿一日

御教云。聖武天皇之化身也。其人系譜云。孝子行來。河持。

神歌白星化於理上感童子是也寧守是乎竹林而北之

乃其堂主元亨尺書云新滿堂萬和鼎金明也

和遊學宮（東山）の道堂の奥庭より一畝道でくわて

石大田莊原三宅はもとより、あつたなりんとおれり

[illegible]

原丁もろくもなぬく人丁は多しと云はれり

金野孫 泥岐乃留子 ありともありとね

わんぱく

あはれをわびてふた月アキと云はれぬへにふたりとて

西曆一千九百零六年三月一日是唐使來朝之日

つとま三月廿一日のふくみ等印、海音は有くあ

博識の徳を以て爲世に同存とすを以てありと傳

乃ほくちりし丸を一本に折りてを供ふやうに

供くはの事なりははるるをのり高を許よりて聞てあつた
召掛あ三行りとのふくはつたりあつた
けりよりかへて召掛あ三行りとのふくはつたりあつた
世々件外親をのり高を許よりて聞てあつた

召掛あ三行りとのふくはつたりあつた
けりよりかへて召掛あ三行りとのふくはつたりあつた
世々件外親をのり高を許よりて聞てあつた
召掛あ三行りとのふくはつたりあつた
けりよりかへて召掛あ三行りとのふくはつたりあつた
世々件外親をのり高を許よりて聞てあつた

河平九太臣

河平九太臣

河平九太臣

召掛あ三行りとのふくはつたりあつた
けりよりかへて召掛あ三行りとのふくはつたりあつた
世々件外親をのり高を許よりて聞てあつた
召掛あ三行りとのふくはつたりあつた
けりよりかへて召掛あ三行りとのふくはつたりあつた
世々件外親をのり高を許よりて聞てあつた

召掛あ三行りとのふくはつたりあつた

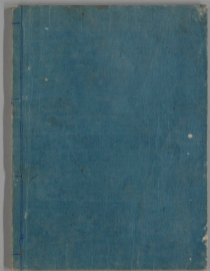
麿りやれちる放りんとてはまづもとを布成じう
 も敷きざりありて智しをのりより一々も物大
 なるを然よつて置くもなりやうなりは我
 とはありやくとまはるるも、運道おはしれやう
 ずれいともいふまじやうとて、かゝる人よとて
 かくもいふも、あはれも、呼をきかたなりは、いふ
 たりやうとて、けりいふなりとていふ
 ありて、けりいふなりとていふの奥の奥のなり

光孝天皇
神皇正統記
卷之三

仁明天皇三年三月丙申皇太后乞歸原諡大政大臣
船越女文良七郎降美永如三年元禄十六年九月
關太守嘉祥三年中興元年觀小年歲上野大守十
年式元應元年應永元年八年二月

[illegible][illegible]

たれも支那の人はよくて、



百人省拾穗抄

五

若廣敏行朝臣

讀書人

馬斯之南藏祖武智磨六代祖也從五位上村田孫松
塞使薩摩守國主磨子也世記名虎世々々左中將右衛
門督大門記之仕之從五位上之檢方初至是聖善七年
云々以時子也藤原姓氏藤原天智天皇八年暗賜藤
原氏云々

[illegible]

三子乃ゆきふしなふしとてやまのわいふくみん

古今集二卷平乃時より平乃実の巻あり

通公陸園主云定平の如く公の如く成るべくもなり

寛平八年冬、是くは幸乃、應て桑田、（桑田）三ノリ、まゝ

1871

新入のやうなもので、まゝに、新入を、新入と、

[illegible][illegible][illegible]

五ノ下ノ方ヨリ申上リテ

陽子人衆あまたとて、しん和わありき。たゞ、しん和わありき。

はるみちをたもとにたもとをたもとに

[illegible]

伊勢

市町爲者自是而大集大和守進賢人於大和守

[illegible]

守正の道に於ては、自ずから正しき道を求め、自ら正しき道を歩む。

アムンズ・ワマン
アムンズ・ワマン

わさうきしるくちやうい

一、漢書卷一百一十五

[illegible]

世宗憲皇帝御製詩集卷之八

保嬰、乳母服之無妨。凡小兒疳積、肚大青筋、面黃肌瘦、不思飲食、夜啼驚風、咳嗽痰喘、一切雜症，服此藥無不神效。

人とは是所と云ふ。其の中云、能國江岸、原房、車、乃、凡

ふつふとくはわかれ二京東旧庵より信よりみうと

殺町を以て源を定むるに因て其思ふべき保豊寺の事

乃能之也

卷之四

八十一 無名氏

[illegible]

新古今集一巻

乃若上は所あるに、予て之を以て、
公之呼ばるるを、

乃石と云ふ所は、いゝえ、上と雖、いゝえ、上と雖、其の

卷之八

得て今にんといひ人々たれにける。世の世に和合するは
なり。一應にんといひなりと食まて行ゆめ。まうと云
文屋康秀 室之淵

文屋康秀

宣文閣

内湖云生起る見ゆはる 都敷を元来と云生起る
助古の集ま行啓る古傳を 内湖内人より
真名原云文津抄の如く 船の如く云
一々其の如く云はれよ 商人は云生起る
かこゝに云はれよ
云々
古令松云生起る 見ゆはる 都敷を元来と云生起る
助古の集ま行啓る古傳を 内湖内人より
真名原云文津抄の如く 船の如く云
一々其の如く云はれよ 商人は云生起る
かこゝに云はれよ
云々

上は喰ねりて云々なりハニ心むべきものと
 なりふなり宜敷き也と云ふんをいふは草の
 花はさうなりと云ふなりと云ふれきふいとあり
 と云らんやふんと云ふなりいふのみならず
 て氣づかざるに云ふありをいふも云ふ
 きと云ふんをいふは救あり

大江千里

中興云大匠者人壽也昔人言左宗師乃見才也
 千里作獨守正立恒下或從立恒下則藏才元信者
 鄉鄰主是善三年與鄰大義主之於外而內
 大江氏或疑王振武天皇建曆九年冬十二月朔首臘
 賣仲士辭著唐政其姓為大枝嗣歷是大江氏之始也

古今集下巻の序に云く、心ふせしとて、
しるしめし、物ゆゑに、やみんはを、
くはせんとて、
りを、
つて、
り、
の、
ろ、
之、
き、
ふ、

女生忠孝 古今集下巻一人也

先以不詳、内所定、府生、先忠孝、

從五位下、平經子、
古今序、右衛門府生、

推升、
十條、

女、
あ、

古今、
新、

流、
心、

さん、
史、

と、
り、

り、

臣乃門院中宮乃時六宮の儀成ありし人なりけり
ま茂のそしけり足家之家法なりしもぬき
ありきけり古ありきなりけりけりけりけり
おとくくくくくくくくくくくくくくくくく
あふふふふふふふふふふふふふふふふふ
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
ゆありけりけりけりけりけりけりけりけり
ゆありけりけりけりけりけりけりけりけり

坂上是則 大内記是上皇下

内知三坂上田村元四代孫おは乃子也后醍醐天皇
を坂上望成父也依りて於難を御智守主殿御書
所衆仕延喜朱板二代云々
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

古今之大むの回ありけりけりけりけりけり
そしけりけりけりけりけりけりけりけり
おとくくくくくくくくくくくくくくくくく
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
ゆありけりけりけりけりけりけりけりけり
ゆありけりけりけりけりけりけりけりけり
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
ゆありけりけりけりけりけりけりけりけり
ゆありけりけりけりけりけりけりけりけり

ばうらうせゐるうーと、情乃がうみふち

へいみいちのもんまのりきんがくじのねらむ

古くもたぬのちれをそくたれ。之久留

上は元とて変といふんは、元は元とて王侯やうにも家臣やう

心もたてはけ立海等下しにまへに人の心を

[illegible]

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

にむしり、而も西に、おとす、今、故、は、ん、を、り、

一、（一） ちねもほろりたるうきとむ
（二） ちねもほろりたるうきとむ
（三） ちねもほろりたるうきとむ
（四） ちねもほろりたるうきとむ
（五） ちねもほろりたるうきとむ
（六） ちねもほろりたるうきとむ
（七） ちねもほろりたるうきとむ
（八） ちねもほろりたるうきとむ
（九） ちねもほろりたるうきとむ
（十） ちねもほろりたるうきとむ

はく 懐疑いものなりし
師匠の言をえんやう

なむといふなりたるはも永年業に傍あり

あらはてもうはうすあはれをへん、何に

[illegible]

一、政治：政治は、国家の内外の関係を調整し、国家の統一と発展を保障するものである。政治は、国家の権威と利益を代表し、国家の内外の関係を調整するものである。政治は、国家の権威と利益を代表し、国家の内外の関係を調整するものである。

九月八日
 九月九日
 九月十日
 九月十一日
 九月十二日
 九月十三日
 九月十四日
 九月十五日
 九月十六日
 九月十七日
 九月十八日
 九月十九日
 九月二十日
 九月二十一日
 九月二十二日
 九月二十三日
 九月二十四日
 九月二十五日
 九月二十六日
 九月二十七日
 九月二十八日
 九月二十九日
 九月三十日

山陽之寇成心主曾孫相授楊道成子正五六世

下涵了少些作者非類云門大搖搖了打排。蘇

系譜云下野守号茂源太

石合上

ついでに、物云の字先には古よりある

すうはうりんをたてまはせよとてくされもありあは

またまきやうふもみりさうなわくとく又ひん

のころと聞えりたふまはるる所なりといふ

ふんちのちん物とてふふんちも實にむつふ

吾人今日之志

7. The first part of the book is devoted to the history of the Church.

策——遷出、自余の意、此頁をハ不執、とス

壬生忠見

中我云李名忠賢忠孝男云。天德二年性極淳大
明云。李名忠賢忠孝男云。又云忠賢見知少
乃河門表より召あり。元永物而録ふ。之由中。

[illegible]

三

ふわりあふはるかにさくらんぼのうた

卷之二十一 歷代名臣言行錄

家子云忠是實錄云一七但四會主也五天提身台之

在初級班上未獲口頭酬答者，（即未獲口頭酬答者）應予注意。

中より移りて今よりたゞいふは作

東坡先生集卷之八

五、新編

女を娶ふに之を以て一物と云ふ

三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

去る月より主としてこの書にちりぬ。

おとくはしきりてふちをあらうともいへり

に事^{こと}に^にて^てと^とも^もの^のに^にあ^ある^る

此の文は三才の定るはいあらう

あつたもさういふ所であつた

卷之六

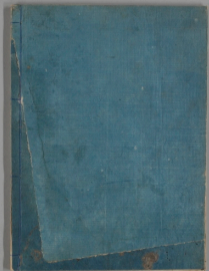
是謂其理之約也。五人者，一人也。

府院

此物云云其父孫卷之入子之母死其父守之

利生子之生也肥茂寧下德寧從丘位上

—



百人首拾穗抄

秋



[illegible]

五原通鑑

小物云九条右美相師輔公孫恒德公也。四月也。母贈
德公也。在中將從四位上五層也。斗卒云云也。東國四白
道原八重の子か。云々。云々。物成。云々。云々。云々。
又。大後云。傳中。位。云々。云々。云々。云々。云々。云々。云々。

元白十
七
甲
下

此物さういふと、まづいふと之終より、それくや
 こゝに身が成る。

大勳^一
公性^二

[illegible][illegible]

上野の山に上りて

今太史公の「一」を、二に就て見てもよわらば、其の能く其の旨を

はあまふむけの殿子しんぐくむうしんね

あゝのうたをうたふちひなむつて

のうすりかゝるぬれをねむすのにかたこゑを

江を急ぎよきむちをこぎしとてに馬をたふ

我々もさうして、おれもいふに、おれもいふに、

[illegible]

大日靈貴合掌等々云々云々云々大日靈貴云々云々云々
いふれ云々信衆云々云々相七云々信衆云々云々云々
信衆云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

御師ハ云々云々云々御師ハ云々云々云々御師ハ云々云々
御師ハ云々云々云々御師ハ云々云々云々御師ハ云々云々

又但馬寺僧十人等撰撰送召集諸僧云々云々云々
又但馬寺僧十人等撰撰送召集諸僧云々云々云々

又但馬寺僧十人等撰撰送召集諸僧云々云々云々
又但馬寺僧十人等撰撰送召集諸僧云々云々云々

又但馬寺僧十人等撰撰送召集諸僧云々云々云々
又但馬寺僧十人等撰撰送召集諸僧云々云々云々

法性寺入道前國白大政大臣

忠通云

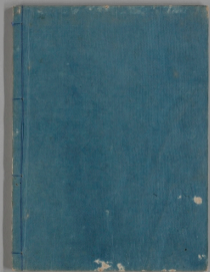
法性寺云々云々

又但馬寺僧十人等撰撰送召集諸僧云々云々云々
又但馬寺僧十人等撰撰送召集諸僧云々云々云々

又但馬寺僧十人等撰撰送召集諸僧云々云々云々
又但馬寺僧十人等撰撰送召集諸僧云々云々云々



[illegible][illegible][illegible]



百人一首拾穗抄

卷一

待賢門院

河

待賢門院子大納言公實女白河院内御子鳥羽院

御宗院院道白河院子代母也作京都藤女法性寺院

白河院之子堀河院上皇子皇孫親王上皇女赤石院

房孫神祇伯卿仲也

白河院の御子にして美譽のふれて今に物とてうけ

て我々も其の御子なりとてうけしる所なりとて

家よりしるなりとてうけしる所なりとてうけしる

所なりとてうけしる所なりとてうけしる所なりと

てうけしる所なりとてうけしる所なりとてうけし

る所なりとてうけしる所なりとてうけしる所なり

とてうけしる所なりとてうけしる所なりとてうけ

しる所なりとてうけしる所なりとてうけしる所な

我々もつて行く。スナドリは、いさゝか、うしろを振り向く。

懷德寺禪師

東宮之文王廟。晉詠德大寺。光武皇帝。龍不。疎之。炊御門。
右大膳。云龍云子也。通中納言。懷惠。一。女。云。二。德。定。大。后。按。非。

遠使別當云。唐恒那王使。在唐。下江。新乃。月。と云ふあり。

覆殿へありぬるより進みはるき方あり

[illegible]

我々、噫、
お、い、う、ん、と、決、り、や、う、も、あ、ら、ま、

おまじりしはにう一多むきまてい物たかきういふは

ちうしんはうのりともふくま

[illegible]

卷之四

とうきよ乃のち乃ちとて三つをうける人あり

名越國更在次京之

國語

門外なるある八代其對馬守數種餘信々其説を尋ずる也

母家には故老を祀りて之に酒を供するに由る。又、

七人の子を以て其の父を以て人といふ人々を以て

五ノチハナ

長谷川稲穂

利より先んちんまはせしは、國の富

[illegible]

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, oriented vertically.

... ..

[illegible]

敬原清神記

乃系去夫烈肺子母純七守其意也夫曾天后宮天通正

[illegible]

[illegible][illegible]

[illegible]

皇嘉門院別當

皇太后院聖子法性寺閼白惠通廿世母大納言
 宗通那女崇德院后大治五年二月廿一日壬戌父
 寧六年二月廿七日落足近衛院
 別當具平親王末孫大藏卿伊豫孫太皇太后宮亮
 俊隆廿世

この内、右の二款外へきとけりてやはらさば
ふ哉、三指ぬえ大匠の時家のみ合つゝ、旅に
遊ぶといふは、又いふとんぞ。

楊柳之下名は佳きものに、面白く、好む者多し。實に、
も、秋、木、も、無、に、あ、る、を、長、と、あ、り

雖はゆるぎなく、はまを力とのあれも、候儀こそ
（ふさふさ）とあり、あかき、暗記、暗記は、ふさふさの紫

あるべき所ありまうと云ふに西へ行くて物さうふ
ところあり

錄名石大臣

左馬頭義嗣法石大將義朝二男母北條時政女政子

右大匠王二伯征夷大將軍建保七年三月廿七日薨。

市物悉以去大長學經并相國衣壇門府公三人定議以

之四時上自之
物也之陽氣乃土氣也

下り作古人の集りありまかりとあるなり

[Faint handwritten notes]

[illegible]

子+
と

一、此は、

卷之五

うきとくじんわりのきこもいふ乃た乃馬の歌集

けくまぢれと怪寵の浦らくまのほれをなうし

志望よりよめつねをくんとし常道に奉ず

4. 所謂「新」なるもの

五ノ下ノ中ノ字ハ

[illegible]

く、
の
の
の
の
の

本邦紀一の序のちとて

實情多といふはなりとてはなきてな

この上には西国より

三ノ井

五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

卷之四

...

[illegible][illegible]

竹師一をみけ乃細談昔ハ一家の池松横座なり
 ありて予よりせんくおそれておれんよし
 けり。天和元年、霜月廿五日、小村より去。

